THE SUGGESTION
提言
中小企業組合総合研究所機関紙
2月1日
第229号（2025年）
発行所
一般社団法人 中小企業組合総合研究所
〒530-0043 大阪市北区天満1-6-8 六甲天満ビル801
電話 06-6809-6634　FAX 06-6881-0782
URL http://www.kumiaisouken.com/

提言・約束事

1. 基本的には読者参加型の提言新聞とします。併せてニュース解説や話題を提供します。
2. 投稿の場合、社会規範に反するものは受付けません。原稿掲載はスペース等の関係もあり編集者の判断にお任せ下さい。

オールジャパン労働組合 結成

労働者と中小企業のための本当の労働組合として

誰でも、一人でも、外国人でも入る事ができる「オールジャパン労働組合」は、２０２４年12月22日、大阪市中央区の大阪府立労働センター（エル・おおさか）で結成大会を開き、闘う労働組合としてこの日スタートを切った。会場には事前の予想を上回る多くの参加者が集まり、期待の高さがうかがわれた。

働いて収入を得る人、それが労働者である。つまり、労働力を売って、その対価として賃金を貰って生活をする、これはパートであっても非正規であっても労働者である。労働者であれば、誰でも、一人でも、外国人でも入る事ができる、それがオールジャパン労働組合である。同労組は、大企業から、収奪されている中小企業と共に闘い、労働者の雇用安定、賃金をはじめ労働条件の維持、向上を図り、社会的地位の向上に貢献する運動を展開していくことを目的としている労働組合であり、産業別、業種別、そして大衆的労働組合である。

本来、労働組合は組合員の利益を守るのは当たり前だが、家族の利益を守り、同時に「自分さえ良ければいい」という事では拡がらない。全ての労働者が団結出来るような労働組合でなければならない。ましてや御用組合では何の闘いも出来ない。それゆえ、誰でも入れると同時に、労働組合らしい労働組合、これを「階級的労働組合」と言うが、労働者全体の利益を代表する労働組合であり、資本家とは対立する関係にある。こういう階級性を持つのが「オールジャパン労働組合」である。

さらに、今、世界では戦争や内紛など色々な問題が起きているが、国境を超えて労働者は団結し、平和のために、戦争を止めさせるために、人権を守るために、国境を超えて国際連帯をするという性格の労働組合でもある。

物事の本質を知るために勉強を

塩原一夫　議長

初めに、塩原一夫氏を議長に選出して議案審議に入った。

塩原議長は議案審議に入るに先立って「今日の結成大会には、予定を上回る40名以上の方が参加されています。スタートはこの40人ですが、しかし、この会館には５００人が入れる会場がありますから、次回、集会をする時にはその会場で、多くの仲間を寄せて大会をしたいと考えています。

そのためには皆さん方一人ひとりが多数派を形成する必要があります。数は力です。しかし、数がいくらあっても、智恵がなければ、本当の力にはなりません。我々は質を高めるために、そして物事の本質を知るために、勉強をしなければなりません。それは非常にしんどい事なのですが、皆さん方と共に何らかの形で僕も運動の力になればというふうに考えています」と挨拶を行なった。

議案審議ではまず、初年度に重点的に取り組むべき「２０２５年度重点活動目標方針」である、「激動変化、大転換の時代に於ける基本スタンス」「セメント産業・生コン産業・輸送業界の現状と今後について」「現状打開する方針とは」「マスコミの報道のミスリードと裁判闘争について」「産業別労働組合こそ労働者の社会的地位向上に貢献する」「当面の具体的課題とその実現に向けての取り組みについて」の6点が掲げられた。

この中では、現在の大阪広域生コンクリート協同組合協（大阪広域協）がどのようにして生まれ、現在90数%の組織率を誇るに至ったのは関生支部が支えてきた事、その関生支部も変質して、財産を食い潰しているだけの存在になってしまった事、そしてそんな現状をぶち壊していくためには新しい労働運動を作り上げ、中小企業を健全に発展させていく事が、オールジャパン労働組合結成の目的である事が説明された。

特に労働者の教育、モラル向上については、これが生コン業界を、また輸送業界を社会的に認めさせ、地位を向上させることに繋がって行き、そのために教育問題を重視する旨が語られた。これらは、現状を打開するため、そして打ち破って行くという課題として、オールジャパン労働組合が今から取り組んでいく必要があるというのが当面の課題の部分であるとした。

また、これらの問題と合わせて、２０２５年春闘についての方向性が提案された。その中では、２０20年12月に建交労関西支部と西日本建設関連オーナー会が一方的に決定した賃下げ、年間休日の20日削減（年間１２５日が１０５日に）など、このように一方的に切り下げた労働条件については撤回を求める取り組みをする必要があるとした。

次に第二号議案「オールジャパン労働組合の規約」について提案され、「オールジャパン」という非常に大きな名前が、関西や近畿の範囲だけではなく、世界的な大きな規模で捉えた労働組合として門戸を広げているという事で命名した事が説明された。

その他、構成、事業内容、組織形態などが説明され、続けて第三号議案の予算案についても提案された後、採決に入り、第一号議案から第三号議案までが一括して採決にかけられ、満場の拍手で承認された。

その後の四号議案の「役員選出」も続けて審議され、満場の拍手をもって承認された。

現状を打破・打開のために

前川久雄　副執行委員長

新役員の紹介の後、閉会挨拶で前川久雄副執行委員長は、「この組合は、企業の枠を超えて、誰でも、一人でも個人加盟が出来るという労働組合です。今、国内の労働組合が非常に弱って、ストライキも出来ないような状況になっています。こんな状況の中において、労働者の地位や賃金減少、あるいは差別が横行しています。こういう現状を打開、打破していかないといけないという思いを持って、新しくオールジャパン労働組合が結成されました。私たちはこの方針を実践に移して、必ず成功させるように頑張って行きたいと思います」と決意を述べた。

会場からは満場の拍手と、期待の声援が多く送られ、大会は成功裏に終わった。

（2面に続く）

四季折々

巳年は脱皮の年

今年は巳年。巳年生まれは蛇のように辛抱強く、粘り強い性格で、知恵や洞察力にも優れていると言われている。

蛇といえば、「蛇足」「やぶへび」「鬼が出るか蛇が出るか」など、あまり良くない喩えに使われる事も多いが、古来から豊穣や金運を司る神聖な生き物として認識されてきた。逞しい生命力を持ち、脱皮をするたびに表面の傷が治癒していく事から、不老不死や医療、再生のシンボルにもなっている。欧米では医の象徴として世界保健機関や米国医師会のマークに使われている。そして、運気を上げる縁起物とも言われており、「蛇の夢」が良い夢とされたり、蛇皮の財布や蛇の抜け殻を財布に入れておくと金運が上がるともいわれている。

また、不思議なめぐり合わせもある。21世紀の始まり（２００１年）は巳年、日本で最初の元号の「大化」元年（６４５年）も巳年、そして「平成」元年（１９８９年）も巳年だった。

このように見ると、巳年は大きな変化と転換が起こる年であるとも言えるのではないだろうか。しかしそれを決めるのは、私たち国民であることは間違いない。今年は参議院選挙がある。「誰かがやってくれる」「誰かが決めてくれる」という依存体質からは脱皮しなければならない。（H）

「オールジャパン労組」は世界を変える

オールジャパン労働組合　顧問　武　建一

私は関生支部（全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部）で60年近く運動をしてきましたが、このたびは、その関生とは違う、建交労（全日本建設交運一般労働組合関西支部）でもない、生コン産労（連合・交通労連関西地方総支部生コン産業労働組合）でもない、まったく独立した労働組合がスタートする事になりました。

７９年前（１９４５年）の今日と同じ12月22日、この日は労働組合法が公布された日です。こういう記念すべき日に、我々は新しい労働組合をスタートしようとしているわけです。

なぜ今、新しい労働組合なのか

この新しい労働組合を結成する理由を最初に述べておきたいと思います。

「連合」（日本労働組合総連合会）という労働組合がありますが、この連合がストライキをした事を記憶している人はいないと思います。

そもそも、連合に結集しているのは、ほとんどが大企業で働いている人です。ただ、その人たちが企業内での自由が保障されているかといえば、必ずしもそうではありません。労働組合の役員選挙の時には、会社が次の役員を指名し、それとは違う人に投票をすると差別されます。ほとんどの大手の労働組合で、そんな状態が今も続いています。トヨタ自動車の労働組合は、「来年の春闘は要求しない」と言っています。そうなると労働組合ではなく、会社の利益代表です。それはトヨタだけではなく、連合に入っている大手の人たちは全てそのように会社に管理されています。連合はそんな労働組合です。

労働組合は資本から自立しなくてはいけません。資本の支配、勧誘を受けてはいけません。労働組合法にもそうなっており、支配したり、お金を渡したりするのは不当労働行為です。でも大企業は不当労働行為などどこ吹く風です。我々は、資本と権力と政党から自立した労働組合です。労働組合の自治権など、物事を労働組合自身が決めていくという労働組合が、この「オールジャパン労働組合」です。当面は関西の生コンを中心としたところからスタートします。現在のところは3つの労働組合と２５０人程の結集です。生コン関係で２５０人と言うと、実は大きい方なのです。

御用組合だらけの実情

現在、関西の生コンでは、建交労という労働組合がありますが、これは全くの御用組合です。現在、太平洋、宇部三菱、住友大阪の3つのセメント会社が事実上全国のセメントを支配しています。これら大企業のやり方を支えているのが建交労です。

また、生コン産労というのもあります。これは昔の「同盟」（日本労働組合総同盟）という労働組合で、昔から「労使協調」「生産性向上」というスローガンを掲げて、会社の言う通りに協力をする御用組合です。

それから関生支部、ここは私が60年近くずっと携わってきた労働組合でした。

中小企業には二面性があって、一つは労働者から搾取する、もう一つは大企業から収奪されるという事です。「運賃を安くしろ」「売り値段を極限まで減らせ」と大企業は利益のため中小企業を利用するのです。

基本的に中小企業同士は互いが競争相手です。ですから「向こうが潰れたら、こっちの仕事が増える」という感覚を強く持っているのです。でも、競争をした、そのしわ寄せは全て労働者に被ってきます。「安い運賃」「安い売り上げ」などの行きつく先は、「労働者の賃金を下げる」「労働条件を下げる」といったように労働者に被ってきます。その中小企業の二面性の中で、労働者に対して不当労働行為をせず、労働者と協調するという立場の会社とは、関生支部は共闘しようとしていました。しかし、今や関生はすっかり変質してしまいました。

変質した関生支部

元々、労働組合が何の目的で出来たかと言いますと、「労働者の経済的、社会的地位の向上を目的とする」というのが労働組合法上の定義です。その定義に忠実に応えて行くのが関生だったんです。その関生が3年前に変質したのは権力弾圧のためです。

２０１８年頃から権力弾圧があり、私は繰り返し逮捕され、1年9カ月も勾留されました。その間に権力側は、関生の中心になっている私を排除する作戦を取ったのです。残念ながらこれは成功しました。

関生の中にスパイを作り、関生内で議論した内容は全て協同組合に筒抜けになっていました。今、関生がしている事は「権力弾圧反対！」と叫ぶだけです。それしか無いのです。

そして、今まで皆が血や汗を流して築いてきた財産を全て処分してしまいました。例えば２００台ほどあったミキサー車などを全て売ってしまいました。尼崎にあった６００坪ほどの土地も売ってしまいました。最も悪質なのは、関生支部50周年記念の時に6億円ほどかけて作った会館も売ってしまいました。「4億円で売った」と言っていますが、報告では「3億円」になっています。1億円はどこに行ったのでしょうか。実は、恐喝の罪で湯川氏に「懲役4年」の判決が出る可能性があります。そうなるとそのまま収監される可能性があるので、そのためにお金が必要だと言っています。でも1億円も必要でしょうか。しかも公表していないお金をそのために使うという事は、本来これは業務上背任、特別背任、あるいは詐欺に相当するのです。これが今の関生の実態です。

最初、私は「関生は再生しなくてはいけない」と思っていたのですが、もう再生はできません。全て腐っています。「魚は頭から腐る」というロシアのことわざがありますが、上が腐り出すと全て腐ってくるのです。今の関生は権力と大企業のポチになっているという状態です。だから再生ではなく、新しくこの「オールジャパン労働組合」を作る必要があるという事になりました。私は顧問として全面的に応援をします。今までの経験を踏まえて支えて行き、そして若い人が中心になって動いてもらうという事です。今後これを成功させるために全力を尽くします。

怒り、不平、不満が原動力

先ほど言いましたように、２５０人というのは、現在の状態から見ると結構多い方です。しかし数が多いだけではダメです。数プラス質です。質とは何か、それは「汝の価値に目覚める」という事です。

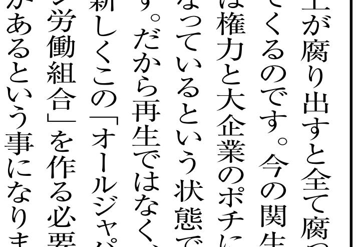
この本質を見る力というのは学習力です。もう一つは環境力です。環境とは何か。まともな労働組合のふれあいがある中で活動をしている人は、それに相応しい考え方が身につくわけです。それを一言でいえば「思想闘争」となります。そのような社会的任務を持っているのが、この「オールジャパン労働組合」です。

怒り、不平、不満、これを持っていない人がもしいるとすれば、「幸福を追求するのを止めた」という事だと思います。幸福を追求するにはどうすればいいのか。幸福を妨害しているものと闘うという事です。幸福を妨害しているのは誰なのかをしっかり見つめなければなりません。そうでなければ闘っても勝利しません。怒り、不平、不満、それは闘いの原動力です。

経済民主主義のために闘う

民主主義というのは平等で公平です。ところが、自由と民主主義は厳密には違います。資本主義というのは自由競争ですから、格差が当たり前になっています。ところが民主主義は公平、平等なので、自由をのさばらさず、抑制しないといけないわけです。その抑制するには民衆が立ち上がるしかないのです。今度の選挙では自公政権が過半数を割りました。国民の怒りがその結果を生んだと思います。今、世界は、アメリカを中心とした帝国主義勢力のグループと、それに反対するグループに分かれていますが、それには全て利権争いが絡んでいます。その利権争いに関係なく立ち上がって行くのが労働者です。

「オールジャパン労働組合」は世界を変えて行きます。もちろん日本を変えて行きます。そしてトラックの労働者の適正な取引条件を確保して行きます。生コンにおいては売り価格を安定させ、そして運賃をきちっと保障させていきます。労働者の労働条件を向上させます。経済民主主義のために一緒に闘う、これが「オールジャパン労働組合」であります。

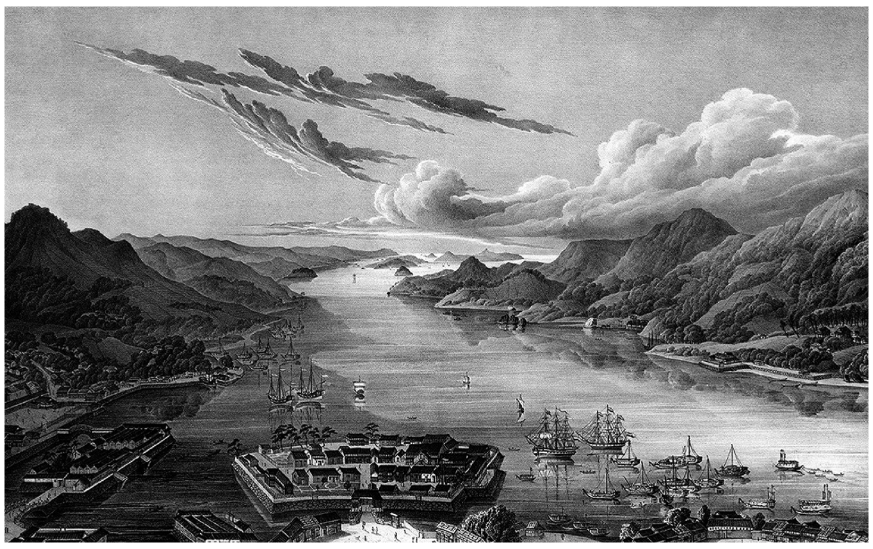

武顧問をはじめスタッフも揃った

地域アソシエーションの芽（70）

京都大学名誉教授 本山美彦

種子をめぐる勢力（16）

江戸時代の鎖国とは


ドイツ人医師シーボルドによる出島のスケッチ

江戸時代の鎖国は、文字通り日本が海外との接触を断って、自給自足の生活を民衆に強いた体制であるとの誤解がいまだにある。幕末の尊皇攘夷を唱える尊皇派と、外国の圧力によってやむなく開国せざるを得ないと訴えていた幕府側が、熾烈な戦いを行なっていたと、面白おかしく当時の時代を描く自称歴史学者が、世界全体の政治経済学の観点から歴史を見る目を日本人から削いできた。自称歴史学者たちが冒した罪は大きい。

鎖国とは、日本からの人の出入りを原則的に禁止する措置であったが、経済的には幕府による貿易の独占（他の大名による貿易は許さない）を推し進めた制度であり、経済的に門戸を閉ざした体制ではなかった。

江戸時代の日本の経済力・貿易量は、世界に冠たるものであった。

２００３年9月にＯＥＣＤ（経済協力機構）の「開発センター」の研究論文集から出された、アンガス・マディソン『世界経済―その歴史統計』という著書がある（https://www.oecd.org/en/publications/the-world-economy_9789264104143-en.html）。

それによると、元禄時代（１６８８～１７０４年、徳川綱吉の治世の頃）の末期の１７００年のＧＤＰは、日本が１５４億ドル、英国が１０７億ドル、オランダが40億ドル、スペインが75億ドル、ポルトガルが16億ドル、米国が5億ドルであった。当時の図抜けた大国の中国には劣るが、日本は世界第2の経済力を誇っていたのである。

残念ながら、この時代の日本の各種貿易額を集計した統計はない。しかし、日本から大量の金銀が流出し、それが世界の貿易を支えていたという断片的な統計はある。

日本からの銀の輸出額は、16世紀末～17世紀には、世界の銀の3分の1～４分の1を占めて、世界一と言っていいほどであったことから見ても、日本の貿易額は世界のトップクラスであったと想像しても、それほど大きな誤りではないだろう（https://mag.japaaan.com/archives/167104#google_vignette）。

「鎖国」という語を日本で最初に使った オランダ通詞の志筑忠雄

この「鎖国」という用語は、五代将軍・徳川綱吉の時代に2年間しか出島に滞在していなかったドイツ人医師、エンゲルベルト・ケンペル（１６５１～１７１６年）が著した『日本誌』の中で使った言葉である。

正確に言えば、一八〇一年にケンペルの著書の中の一部をオランダ語版から翻訳した蘭学者（元はオランダ通詞）の志筑忠雄が、それを「鎖国論」という題で翻訳したことが、鎖国という言葉の始まりであった。

翻訳作業というものは、単に外国語の会話ができるだけでは成り立たない。そもそも、日本語には情緒的な単語は多いが、西欧的な意味における科学的な語はほとんどなかった。オランダ人、特に世界的な水準の科学者の思想を日本語に翻訳するには、新しい単語を発明しなければならない。

志筑は、まず原文に対応する言葉を古典や古文に求めた。志筑の日本の古典に対する造詣は、当時の国学の最高権威である本居宣長に対して堂々と異説を立てられるほどのものだったとされている。

時には中国の文献や仏教用語なども参照しながら、志筑は自分が理解した概念にふさわしい用語を創って行った。翻訳作業において、志筑が発明した用語には、「求力」（引力のこと）、「万有求力」、「属子」（分子のこと）、「真空」、「重力」などがある。

それでもうまくいかない場合には、発音をカナで表記し、原語を並記した（新戸雅章『江戸の科学者―西洋に挑んだ異才列伝』平凡社新書、２０１８年）。

志筑には非常に高い学力があった。そうした高い学力を有していたのは志築だけではない。青木昆陽、野呂元丈、前野良沢、平賀源内、大槻玄沢、杉田玄白、稲村三伯、馬場佐十郎、青地林宗、渡邊崋山（江戸時代の日蘭交流、https://www.ndl.go.jp/nichiran/）。宇田川榕菴、宇田川玄随、宇田川玄真、箕作阮甫。中でも、宇田川榕菴が翻訳とそれに加筆した『舎密開宗』は日本初の本格的な化学書となり、「酸素」、「窒素」、「炭素」などの元素名、「酸化」、「還元」、「溶解」などの化学用語を創りだした（津山藩の蘭学者たち、https://www.mapple.net/articles/bk/13829/）。

日本最初の理化学専門学校として開局した大阪舎密局は、後に旧制第三高等学校・京都大学へと繋がっていく（大阪市中央区）。

余談として書いておきたい。旧制三高は、１８６９年、化学・物理の学校として大阪に開局した「舎密局」（せいみきょく）を起源とし、その後、１８８９年に京都に移転、１８９４年に第三高等学校の名称となったものである（https://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/contribution/sanko/#:~:text=三高）。

小藩の津和野藩も多くの俊秀を輩出した。西周、森鴎外、福羽美静、小藤文次郎、福羽逸人（藩校養老館、https://www.town.tsuwano.lg.jp/www/contents/100000023000/index.html）。

中でも西周（西・あまね、１８２９～１８９７年）は明治維新の学界に君臨して、突出した人物であった。榎本武揚とともに、オランダのライデン大学に留学。「哲学」、「真理」、「芸術」、「理性」、「科学」、「知識」、「定義」、「概念」、「命題」、「心理」、「物理」、「消費」、「取引」、「帰納法」、「演繹法」、「権利」などが西周の造語と言われている。

ちなみに中津藩（豊前国下毛郡中津、現在の大分県中津市）出身の福沢諭吉も、「自由」、「経済」、「演説」、「討論」、「競争」、「共和」、「抑圧」、「健康」、「楽園」、「鉄道」などの日常生活に即した言葉を創った（https://www.walight.jp/2016/05/28/西周/）。

2年以上の滞在を許されなかったオランダ商会の知識人たちが、帰国後、日本に関する膨大な数の資料を発刊できたのは、彼らを支えていた数多くの日本の優れた通詞がいたからである。

提言文芸

~投稿歓迎~

・武力では 国民の暮らし 守れません
（憲法窮状）

・金のため 人も自然も 切り売りし
（落日の資本主義）

軍事費の増加や平和憲法の議論が進むなか、平和や未来の暮らしを守るために、武力や軍事力に依存するのではなく、経済的安定や社会福祉、教育などの方法を重視すべきです。資本主義や経済優先の社会では、金儲けのために自然を破壊し、人間関係や、人間そのものを破壊してしまいます。人と自然が共存共栄していける世界を目指すべきでは。

社会資本政策研究会
〒533-0032
大阪市東淀川区淡路三―六―三一
協同会館アソシエ１階
電話（〇六）四八六二―四〇二二
FAX（〇六）四八六二―四〇二三

サンセイ生コンクリート株式会社
代表取締役 稲村義昭
〒651-1412
兵庫県西宮市山口町下山口一六五一―一
電話（〇七八）九〇四―三六九一
FAX（〇七八）九〇四―二一〇七

関連団体を支援する会
ＫＵ

関西
生コン関連
経営者会

大化の改新・蘇我入鹿以来、伊藤博文、大杉栄、安倍元首相まで

『暗殺。』深い海の底で　（展望社）

著者・評者　平林　猛

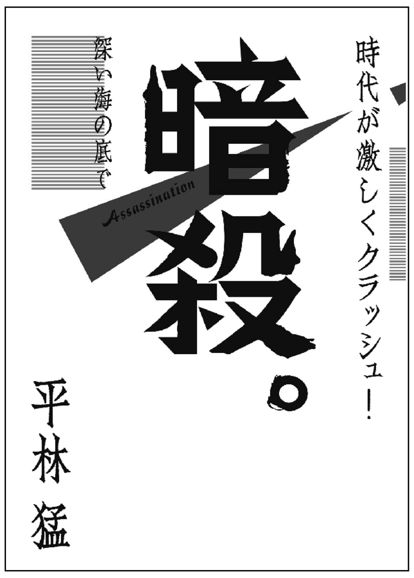
徳之島出身の一人の男・武建一の半生を描いたドキュメント映画「棘～人の痛みは己の痛み」（２０１９年・杉浦弘子監督）は全国の上映会で好評を博した。その映画の原作者である平林猛氏の待望の最新巻『暗殺。』がこのほど上梓され、平林氏自身が自著を紹介する。

私の本が今年早々出版された。奇書とも呼びたくなるような本だ。タイトルはなんとズバリ『暗殺。』である。著者の私は強引に『提言』編集部に前書きを書かせろと談判。異例、書くことになった。

さて、この本が世に出たのは昨年（二〇二四年）の暮れである。原稿を書き出してから、なんと三年。原稿は完成寸前。だが、内容が粗末。ストーリーに紆余曲折があるが、出版に耐えられない。そう編集長が判断、出版社の倉庫の奥で深い眠りに就いていたのだ。その原稿が何の因果か、生命力が強いのか、息を吹き返し、奇跡的に本となり、この世に登場したのである。さて、そんな感じで本題に入る。

日本初のクーデター「乙巳の変」

日本の歴史上、飛鳥時代の六四五年（乙巳の年）。暗殺が行なわれたのが「宮廷のクーデター」と言われた「乙巳の変（いっしのへん）」である。中大兄皇子（なかのおおえのおうじ）、忠臣鎌足（ちゅうしんかまたり）らが悪豪族・蘇我入鹿（そがのいるか）を宮中にて首を刎ねたのである。その後、中大兄皇子は体制を刷新し「大化の改新」と呼ばれる改革を断行したのである。蘇我入鹿が首を刎ねられ、「暗殺」された事件を厳密には「乙巳の変」、それに始まる一連の政治制度改革を「大化の改新」と言い、「乙巳の変」は大化の改新の第一段階スタートであった。

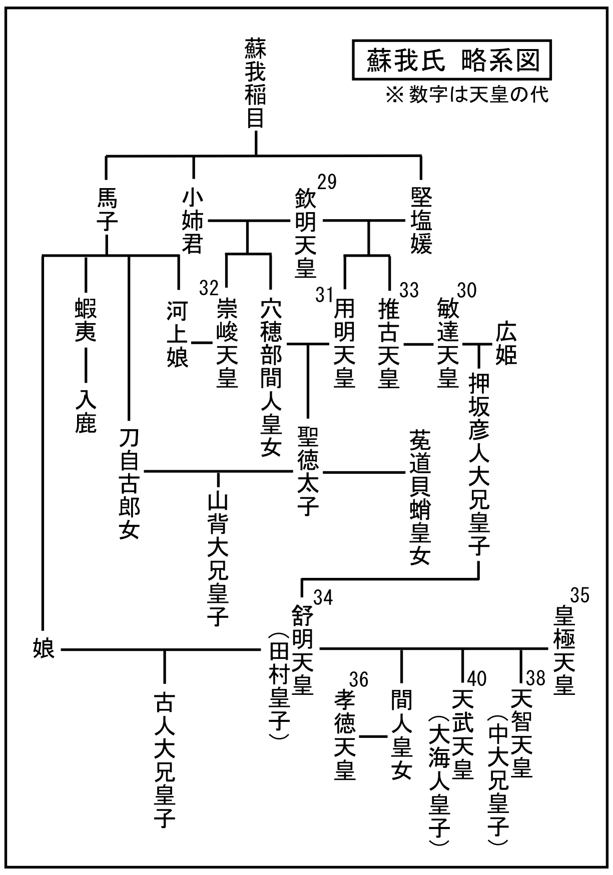


蘇我氏の横暴

時代が動くのは当然の事、推古（すいこ）天皇三十年、聖徳太子が薨去した。聖徳太子の死により大豪族である蘇我を抑える者がいなくなった。蘇我一族の専横は甚だしいものになり、その権勢は皇室を凌ぐほどになっていた。

推古天皇三十四年、豪族・蘇我馬子（そがのうまこ）が死に、その子の蝦夷（えみし）が代って大臣となった。推古天皇三十六年である。だが、絶対的に権力を維持していた聖徳太子は後嗣を指名することなく崩御したのである。

有力な皇位継承権者には山背大兄王（やましろのおおえのおう）を指名していた。つまり、父は聖徳太子。母は蘇我馬子の娘・刀自古郎女（とじこのいらつめ）で聖徳太子の妃であった。刀自古郎女の父は蘇我馬子で、母は物部氏の女と伝えられ、蘇我入鹿とは従兄弟に当たる。血統的には山背大兄王が蘇我に近い。聖徳太子は蘇我の血縁であり、山背大兄王の母は蝦夷の姉である。山背大兄王は二世王に過ぎず、既に天皇位から離れて久しい王統であり、加えて、このような皇族が、斑鳩（いかるが）という交通の要衝に多数盤踞して、独自の政治力と巨大な経済力を擁していることを嫌った推古や蝦夷などの支配者層は、田村皇子（たむらのおうじ）を次期皇位に推した。蝦夷は山背大兄王を推す叔父を滅ぼして、田村皇子を即位させた。蘇我の勢いはますます盛んになり、豪族達は朝廷に出仕せず、専ら蘇我家に出仕する有り様となった。



暗殺前夜

皇極天皇三年には、蝦夷と蘇我入鹿が甘樫丘（あまかしのおか）に邸宅を並べ立て、これを「上（かみ）の宮門」「谷（はざま）の宮門」と称し、入鹿の子供を「王子」と呼ばせた。蝦夷の畝傍山の東の家も含め、これらを武装化したとされ、蘇我のわがまま、専横の一例とされる。

緊迫の度を増している東アジアの国際情勢を考えれば、国政を司る蝦夷や入鹿が、飛鳥の西方の防御線である甘樫丘や、飛鳥への入り口である畝傍山東山麓の防備を固めるということは、施政者として当然の措置であり、これらのことは蘇我主導による国防強化という政策であったことが考えられる。

皇極天皇二年十一月一日、蘇我の血をひく古人大兄皇子（ふるひとのおおえのみこ）を皇極天皇の次期天皇に擁立しようと望んだ入鹿は、軍勢をさしむけ、山背大兄王の住む斑鳩宮を攻めさせた。これに対し山背大兄王は、舎人数十人をもって必死に防戦し、土師娑婆連を戦死させるが、持ちこたえられず生駒山へ逃れた。そこで側近から、東国へ逃れて再挙することを勧められるが、山背大兄王は民に苦しみを与えることになると採り上げなかった。山背大兄王は斑鳩寺に戻り、王子と共に自殺。このことによって聖徳太子の血を引く上宮王家は滅亡した。

入鹿が山背大兄王一族を滅ぼしたことを知った蝦夷は、「自分の身を危うくするぞ」と嘆いていた。

当時の皇位継承は単純な世襲制度ではなく、皇族から天皇に相応しい人物が選ばれていた。その基準は人格のほか年齢、代々の天皇や諸侯との血縁関係であった。これは天皇家の権力が絶対ではなく、あくまでも諸豪族を束ねる長（おさ）という立場であったためである。

また、推古天皇の後継者争いには、田村皇子天皇系と用明天皇系の対立があったとも言われている。

また、入鹿に従い、山背大兄王討伐軍の将軍となった巨勢徳太（こせのとこた）は、「大化の改新」後の政府で左大臣に任命されているほどの有力なマヘツキミ（天皇の御前に侍し、奏宣にあずかるものをいい、後の太政官を構成した議政官にあたる）であった。

『日本書紀』で入鹿の独断が強調されているのは、「偉大な聖徳太子の後継者を独力で滅ぼした邪悪な入鹿」という人物像を作り上げるためであったと考えられる。

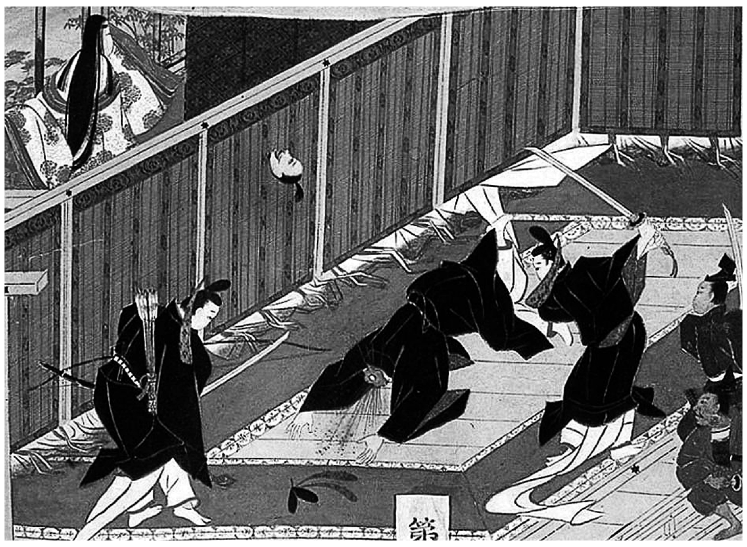
神祇を職とする一族の中臣鎌足（なかとみのかまたり）は、蘇我の専横を憎み嫌い、蘇我氏打倒の計画を密に進めた。

鎌足はまず、政変の中心にたりえる人物を探した。法隆寺の打毬で、中大兄皇子の皮鞋が脱げたのを鎌足が拾って中大兄皇子へ捧げた。これが縁となって二人は親しむようになった。中大兄皇子と鎌足は私塾で周孔の教えを学び、その往復の途上に蘇我氏打倒の密談を行なったとされる。鎌足は更に蘇我一族の長老を同志に引き入れ、その娘を中大兄皇子の妃としたのだ。

「乙巳の変」には、大臣蝦夷の後継者が入鹿になったことに対する、蘇我氏同族の氏上争いといった側面も見られ、むしろ鎌足が氏上と大臣の座を餌に、蘇我倉氏の石川麻呂と阿倍内麻呂を誘い込んだと見られる。また、中大兄皇子の狙いは、蝦夷と入鹿を倒すことを目的としていただけでなく、それまでの皇位継承の流れから考えると、同時に蘇我系王統嫡流の古人大兄皇子、にもあったと考えられる。

皇極天皇四年（六四五年）、三韓（新羅、百済、高句麗）から韓国からの使者が来日した。「三国の調」の儀式は朝廷で行なわれ、大臣の蘇我入鹿も必ず出席する。中大兄皇子と鎌足はこれを好機として暗殺の実行を決めたのである。

（5面へ続く）


「乙巳の変」。蘇我入鹿が首を刎ねられている。左上は皇極天皇

歴史が動いた

六月十二日、「三国の調」の儀式が行なわれ、皇極天皇が大極殿に出御し、古人大兄皇子が側に侍し、蘇我入鹿も入朝した。蘇我入鹿は猜疑心が強く日夜剣を手放さなかったが、道化に言い含めて、剣を外させていた。中大兄皇子は衛門府に命じて宮門を閉じさせた。石川麻呂が上表文を読んだ。中大兄皇子は長槍を持って殿側に隠れ、鎌足は弓矢を取って潜んだ。海犬養勝麻呂（あまのいぬかいのかつまろ）に二振りの剣を運ばせ佐伯子麻呂と葛城稚犬養網田に与えた。葛城稚犬養網田は犬の飼養で王権に仕え、後に内蔵の管理にもあたった氏族である。しかし、「葛城」を冠しているところから、葛城地方に居住していた集団であり、本来は蘇我氏の影響下にある集団から、反本宗家の動きが出てきたと考えられる。いずれの氏族も、後の宮城十二門の守衛にあたる門号氏族であり、「乙巳の変」の際に「倶に十二の通門をさしかため、往来はしめ」なかったのも、これらの氏族の協力があったと考えられる。

入鹿を斬る役目を任された二人は恐怖のあまりに、飯に水をかけて飲み込むが、たちまち吐き出すありさまだった。鎌足は二人を叱咤したが、石川麻呂が表文を読み進めても子麻呂らは現れない。恐怖のあまり全身汗にまみれ、声が乱れ、手が震えた。不審に思った入鹿が「なぜ震えるのか」と問うと、石川麻呂は「天皇のお近くが畏れ多く、汗が出るのです」と答えた。

中大兄皇子は子麻呂らが入鹿の威を恐れて進み出られないのだと判断し、自らおどり出た。子麻呂らも飛び出して入鹿の頭と肩を斬りつけた。入鹿が驚いて起き上がると、子麻呂が片脚を斬った。入鹿は倒れて天皇の御座へ叩頭し「私に何の罪があるのか。お裁き下さい」と言った。すると、中大兄皇子は「入鹿は皇族を滅ぼして、皇位を奪おうとしました」と答えると、皇極天皇は無言のまま殿中へ退いた。子麻呂と稚犬養網田は入鹿を斬り殺した。

この日は大雨が降り、庭は水で溢れていた。入鹿の死体は庭に投げ出され、障子で覆いをかけられた。

「天宗を尽し滅す（皇族を滅ぼし尽くした）」というのは山背大兄王や上宮王家の討滅を指すのであろうが、それと自らが皇位と代わろうという野望を抱いていたと短絡させるのは論理的ではない。また、斬られた入鹿が開口一番に「皇位にあらせられるべきお方は天の御子（天皇）でございます」と訴えるのもおかしな話であり、要するに「皇位篡奪を企てた逆臣蘇我氏」と「それを誅殺した偉大な中大兄皇子と、それを助けた忠臣中臣鎌足」という図式で、この出来事を描こうとしているのである。

入鹿からしてみれば、高句麗にならって権力を自己に集中させ、飛鳥の防衛に腐心して、激動の東アジア国際情勢に乗りだそうとしていた矢先に、いきなり斬り殺されてしまったことになる。斬られた後に叫んだという、「私が何の罪を犯したというのでございましょう」という言葉は、本当に発したものか否かはともかく、まさに入鹿の思いを象徴したものであると考えられる。

翌六月十三日、蝦夷は舘に火を放ち、『天皇紀』『国紀』その他の珍宝を焼いて自殺した。この内『国記』を火中から拾い出して中大兄皇子へ献上した。こうして長年にわたり強盛を誇った蘇我本宗家は滅びた。

「乙巳の変」の舞台となった伝飛鳥板蓋宮跡

大化の改新

翌六月十四日、皇極天皇は軽皇子へ譲位した。孝徳天皇である。中大兄皇子は皇太子に立てられた。「大化の改新」（たいかのかいしん）は、皇極四年（六四五年）六月十二日、飛鳥板蓋宮の「乙巳の変」に始まる一連の国政改革、つまり、豪族を中心とした政治から天皇中心の政治へと移り変わったとされている。この改革により、「日本」という国号及び「天皇」という称号が正式なものになったとする。中大兄皇子と鎌足は、退位した皇極天皇に代わり、その弟の軽皇子を即位させた。孝徳天皇即位の直後から新たな時代の始まりとして、日本で初めての元号「大化」を定めたとされる。

改新の歴史的意義や実在性については様々な論点が存在し、二十世紀後半には大きく見解が分かれていた。しかし、二十一世紀に入り、前期難波宮の発掘調査による成果や、七世紀木簡の出土などにより、当時の政治的変革を評価する傾向が主流を占めるようになっている。中大兄皇子は安倍内麻呂を左大臣、蘇我倉山田石川麻呂を右大臣、中臣鎌足を内心に任じ、後に「大化の改新」と呼ばれる改革を断行したのである。

ハルビン駅で銃撃される直前の伊藤博文（シルクハット着帽・1909年）

悲劇の暗殺

さて、暗殺は日本を始め、世界の国々において政治の一つの手段として使われて来たのだ。当然、日本でも暗殺は激しく利用され、「大化の改新」も一つの政治であったのだ。

その後、日本でも様々な暗殺によって政治は大回転し、多くの人間たちが、その渦に巻き込まれ、時代が展開していったのである。

歴史は残酷である。西郷隆盛、大久保利光、伊藤博文、木戸孝允、小松帯刀、高杉晋作、吉田松陰など、明治維新の激動の歴史の中で暗殺され、歴史の中に埋もれて行ったのである。

だが、過激な日本の歴史の流れの中で、抜け落ち、忘れられた悲しい人間がいた。この男は激動の政治の中で暗殺されたのではない。自らの政治家一族が自らの手で招いた無謀なスキャンダルによって嫌疑を掛けられ、大勢の人間が参集する路上で銃撃され、暗殺されたのである。悲劇であった。

【著者紹介】

平林猛（ひらばやしたけし）。ジャーナリスト。1941年、東京湾羽田浦の船大工の長男として生まれる。講談社『週刊現代』記者。NHK『中国改革解放』三部作、日本テレビ『黄金海道』等多数。評伝は『創価学会池田大作会長の羽田時代』『棘男』『棘男2』（展望社刊）など多数。ニライカナイ塾長。

パリ五輪金メダル祝勝会に参加して

医療法人「徳洲会」グループは昨年10月31日、リーガロイヤルホテル大阪（大阪市北区）で「杉野正尭選手・岡慎之助選手　パリオリンピック金メダル祝勝会」を開催。本紙の武建一・編集長も招待され参加した。

徳洲会体操クラブ所属の杉野選手と岡選手は、パリオリンピックに体操男子の日本代表として出場し、団体総合で金メダルを獲得。岡選手は個人総合と種目別鉄棒でも金メダル、種目別平行棒で銅メダルを獲得した。

徳洲会体操クラブには以下の歴史がある。徳田虎雄・徳洲会理事長は、1996年、日本体操協会の会長に就任し、1998年4月には「徳洲会体操クラブ」を創部した。このような経過を経て、今回の金メダル獲得に輝いた。これは徳田虎雄氏の先見の目をうかがわせる歴史事業である。

祝勝会の会場には関係者ら約700人が詰めかけ、両選手の金メダル獲得を盛大に祝福するとともに、徳洲会は徳田虎雄氏の意思を引き継ぎ、更なる成長をする事を参加者に披瀝し、まことに意義のある集いとなった。

写真は左から武建一氏（連帯労組関生支部委員長）、徳田虎雄氏、池田良太郎氏（近畿生コン関連協同組合連合会会長）、鶴田渉氏（鶴田建設社長）で、池田氏以外の3名は徳之島出身である。

徳田虎雄氏が若い頃、「人権を擁護し、差別をなくすには、政治家になり総理大臣を目指す。世界の厚生大臣になって『命は平等である』ことを広める事だ」と話された。これは、その時のスナップ写真である。

ベトナム外務省常任副大臣訪問団夕食懇談会

両国の協力関係促進を目的に

日越関西友好協会

12月14日、ベトナム社会主義共和国外務省グエン・ミン・ヴー常任副大臣および外務省訪問団が来阪、ホテル日航大阪（大阪市中央区）で夕食懇談会が開催された。主催は日越関西友好協会で、同協会には組合総研も参加協力している。

ベトナム外務省常任副大臣訪問団様夕食懇談会
2024年12月14日 ホテル日航大阪

日越関西友好協会・西村会長（前列左3人目）、ヴー副大臣（同4人目）、日越関西友好協会・築野理事長（同5人目）、在大阪ベトナム総領事館・ハー総領事（同6人目）

訪問団一行は、日本とベトナム両国の経済・地方間協力関係の促進を目的に、12月11日に来日。東京で大臣や関係者との会談を終えた後、山口県を訪問するなど過密な日程をこなし、離日前日の12月14日のこの日の懇談会となった。会は終始なごやかな雰囲気で、参加者は互いに懇親を深め、両国関係の発展、協力を誓い合った。

日本とベトナムの架け橋に

日越関西友好協会 会長　西村貞一

ベトナムと日本は長い歴史を有する友好国であり、現在は戦略的友好パートナーシップとして、たいへん重要な関係であります。また経済、文化、教育など、多岐にわたる分野の交流が進んでおり、両国の関係はお互いの理解と信頼を深める事でますます強固なものになっていると思います。

我々、日越関西友好協会は来年（２０２５年）、設立30周年を迎えます。大阪にベトナム総領事館を開設する誘致活動から始まり、この30年間、総領事館とともに友好の増進に努めてまいりました。また、30年の節目として、来年11月に訪越団の派遣を計画しております。我々としては、両国の関係が一層発展し、本会がますます日本とベトナムの架け橋となる重要な役割を担う事を願っております。

日本は主要なパートナー

グエン・ミン・ヴー ベトナム外務省常任副大臣

今回、我々が訪問した目的は、主にベトナムと日本の政治、または経済関係が良好に発展している事をさらに推進させる事です。

二番目の目的としては、地方間の経済協力、また地方の連携を強化していく事です。大阪は日本第二の経済中心地であるという事で知っていましたが、今回はその訪問がやっと実現できました。

そして私が最も強調したいのは、経済、貿易、投資、人的交流を通じて、ベトナムと日本の関係促進をさらに加速してくために、今がベストタイミングだという事です。ベトナムと日本の間の戦略的な利益の繋がりは大変強固なものとなっています。２００９年に「戦略的パートナーシップ」、そして２０１０年には「アジアにおける平和と繁栄のための戦略的パートナーシップ」に格上げされ、また昨年、「アジアと世界における平和と繁栄のための包括的戦略的パートナーシップ」にも格上げする事が出来ました。

日本は現在、ベトナムにとって主要な経済パートナーです。この一年間で日本からの投資は30億ドル増加し、累計の投資額は８００億ドルにのぼりました。ＯＤＡでは7億ドルもの追加、新規の案件を打ち出されて、ベトナムにとって日本はＯＤＡの最大協力国です。また、新しく10万人のベトナム人労働者が来日し、ベトナム人の在住者数は60万人を超えています。

築野理事長（左）とヴー副大臣

ベトナムのトー・ラム書記長は、「ベトナム民族が新しい時代を迎える、その繁栄のための時代を迎える、まさに考え方をこれから刷新して行くべき時代である」という事を強調されました。ベトナムでは今も多くの変革や変化が起きています。例えば、行政システムの縮小や南北鉄道案件、また中国と繋ぐ鉄道案件や高速道路の拡大など、２０３０年までにベトナムが発展していくための野心的な目標を掲げています。こういう時こそ、日本企業や投資家にとって大きなチャンスが待っているのではと思います。鉄道案件や高速道路、空港など、大規模なインフラ整備案件のための製鉄や製鋼素材の生産、また、そういったベトナムの市場に向けた質の高い物を生産して提供していただく事、そして不動産市場もまだまだポテンシャルが大いに潜んでいるという事を強調したいと思います。

先日、大阪府副知事と会談をさせていただいた際に、「大阪・関西万博の開催に合わせて、必ずベトナムからハイレベルの指導者の訪問団を派遣します。あわせてベトナムの企業訪問団も同行し、大阪の経済協力におけるチャンスを探しに行きます」という事を伝えました。

また、来年11月に訪問団が来ていただけるという事で、外務省として、しっかりと成功に向けて協力させていただきたいと思います。その際に、今ベトナム側が計画している第一回の日越地方交流、地方連携コラボを開催します。ハイレベルの指導者が主催することになりますので、ぜひ参加して協力していただきたいと思います。

映画「棘～ひとの痛みは己の痛み。武建一」

2/22 管理職ユニオン・関西で上映会

棘
ひとの痛みは己の痛み。武建一
杉浦弘子 監督作品 ドキュメンタリー映画

映画「棘」（2019年・杉浦弘子監督）は、徳之島生まれの一人の男、武建一氏の半生を描いたヒューマンドキュメンタリー。19歳の時に島を出て、大阪でミキサー車運転手として働いていたが、仲間が突然解雇された事をきっかけに人生は激変する。労働組合を結成して闘うが、労働者のために交渉すればするほど、親会社やセメント会社、ゼネコンからは嫌われる。組合や武氏に対する弾圧にも屈せず闘う、その不屈の精神はどこからくるのだろうか…

当日は上映後に武建一氏のミニ講演、懇親会も行なわれる予定。参加希望者は管理職ユニオン・関西（06-6881-0781）まで。

■日　時　2月22日（土）14:00上映開始
■会　場　管理職ユニオン・関西（地下鉄「天満橋駅」徒歩10分）
大阪市北区天満1-6-8 六甲天満ビル801
※懇親会に参加の方はカンパをお願いします。

頑張れ尾上部屋

春場所激励会 開催予定

大相撲一月場所（両国国技館）では、初日から横綱・照ノ富士（伊勢ヶ濱部屋）に黒星がつき（後日引退）、綱取りがかかっていた琴桜（佐渡ヶ嶽部屋）や大の里（二所ノ関部屋）など大関陣も存在感を示せない中、千秋楽で平幕の金峰山（木瀬部屋）、王鵬（大嶽部屋）との三つ巴の優勝決定戦を制した大関・豊昇龍（立浪部屋）が、一昨年七月場所以来となる2回目の優勝を飾った。大関として初優勝の豊昇龍は横綱昇進を確実のものとした。

◆

尾上部屋関西後援会では春場所前の激励会を開催予定。会の開催で、尾上部屋力士への激励はもちろん、関係している各分野での運動を盛り上げる機運も高まっている。

一月場所　尾上部屋力士成績

☆印は勝ち越し力士

番付	四股名	成績
【幕下】		
西19枚目	伊波	☆4勝3敗
東20枚目	北天海	3勝4敗
東25枚目	春山	☆4勝3敗
西37枚目	城間	2勝5敗
【三段目】		
東40枚目	穂高	☆5勝2敗
西42枚目	大海	2勝5敗
東57枚目	照寶	☆4勝3敗
東59枚目	高馬山	☆5勝2敗
東66枚目	高倉山	2勝5敗
【序二段】		
東21枚目	玄武丸	☆4勝3敗
西36枚目	坂林	☆5勝2敗
西51枚目	九鬼王	3勝4敗
東97枚目	富士の輝	☆5勝2敗

※三月場所（春場所）の番付は2月25日に発表

【第228号（1月1日付）のお詫びと訂正】

1面掲載の武建一氏の新年挨拶中において、「南アメリカでは食糧主権運動と…」の記述がありますが、「南アフリカでは食糧主権運動と…」の誤りでした。関係者にご迷惑をおかけしました事を深くお詫びし訂正いたします。